

# つくば市記者会 御中

発信日：令和4年（2022年）3月9日（水）

発信元：つくば市 政策イノベーション部 科学技術振興課

■取材依頼 ■周知依頼 □募集告知 □その他

## 水素燃料電池マイクロバスから災害時を想定した電源供給と感染症対策が施された避難所レイアウトの検証を行います

つくば市は、筑波大学が「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」事業の一環で実施する、感染症対策システムを備えた「災害医療モビリティ」の実証実験に協力しています。

今回、旧筑波東中学校体育館を避難所に見立て、筑波大学の感染症対策システムを備えた水素燃料電池マイクロバスから、避難所へ電源供給を行う実証実験を行なうとともに、茨城県の協力のもと、感染症対策の施された避難所レイアウトの検証を行います。

本水素燃料電池マイクロバスは、災害時の電源供給車両としても利用されるほか、PCR検査システムを備えたバスとして、大規模イベントだけでなく、様々なシーンでの展開が期待されています。

### 【日時】

令和4年3月14日（月）15:00～16:00

### 【場所】

旧筑波東中学校体育館（つくば市北条4160番地）

### 【その他】

取材をご希望の方は、3月14日（月）10時までに、科学技術振興課にご連絡ください。

### ※水素燃料電池マイクロバスについて

筑波大学が内閣府戦略的イノベーション創出プログラム（SIP）「国家レジリエンス（防災・減災）の強化」の採択事業「水素燃料電池バスを用いた防災・感染症対策システムの開発」により、小型で機動性の高い水素燃料電池バスとして、令和4年1月に開発したものです。

なお、水素燃料電池バスとしては、大型バス「SORA」も令和3年10月から運用されており、つくば市ではこれまでに感染症検査機能の実証実験や、市独自のPCR検査会場での臨床研究、「令和4年つくば市成人の集い」当日のPCR検査、県立つくば特別支援学校での医療ケア機器等への電源供給等、様々な場面で使用されています。



水素燃料電池マイクロバス  
（筑波大学提供、写真提供可）